

慶徳タマネギ(慶徳中甲高黄)

1, 解説

本種は、喜多方市慶徳地区で採種され、会津地方で主に栽培されてきたタマネギである。福島県農業誌によると、昭和初期頃会津地方で採種されていた雑ばくな‘泉州黄’から慶徳農協（当時）の山内衛技師らの努力により改良選抜された品種であり、早期抽台性の淘汰と貯蔵性の向上を目標に改良を進めたものである。

熟期は中生で、横径に対し縦径がやや大きい中甲高の球型であり、収穫時の皮色は銅黄色である。

当時、肉質が締まり貯蔵性に優れ販売用に適した品種であった。最近の品種と比較すると、貯蔵中の萌芽は早い。

昭和39年には農林大臣賞を受賞している。

2, 写真



生育中の草姿



生育中の株元



鱗茎

3, 遺伝資源の栽培および保存状況

- ・会津地方を中心に栽培されている。
- ・種子はJA会津いいで、または菊地種苗株式会社で取り扱っている。